

民報 藤島

2014年 6月29日

第 955号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお
願ひしています。民報
配布者にご連絡下さい
（月177円程度）
6月 18人 36,885円
5月 40人 35,620円

J A庄内たがわ総代会

黒井徳夫組合長が4期目 専務に田中壽一氏を新任

J A庄内たがわ（黒井徳夫組合長）の第19回通常総代会が6月20日、新余目支所2階ホール（旧梵天）で開かれ、2013年度の事業報告と剰余金処分案

され4期目に入ります。

専務に田中壽一氏を

新任し、常務理事に五

十嵐善昭氏を再任、宮

崎重美氏を新任しまし

た。

代表幹事に坂清一氏

を新任、常勤監事に佐藤準氏を再任しました。総代会終了後に組合員代表者集会に切り替え、「T P P断固反対に関する特別決議」を採択しました。

（株）あいとサービスを設立

総代会後の理事会で黒井徳夫組合長が再任

農機・車両・燃料・葬祭の4経済事業の子会社を8月設立し、燃料と葬祭は10月に、農

機と車両は来年1月に事業開始する計画です。会社名は「株式会社あいとサービス」で1株5万円の2000株（1億円）を農協が全額出資し設立します。

目的とする事業には経済4事業の他に、福祉、介護事業や農畜産物の加工、貯蔵、販売、共済代理店業、損害保険代理店なども掲げています。

新しく介護保険事業に着手

26年度は新規に「高齢者福祉事業基本方針」が提案され、担い手農家の介護負担の軽減を図る目的で、介護予防活動や高齢者の見守り等日常生活の支援、介

護保険事業の実施（ケアマネ、訪問介護、福祉用具レンタル）に取り組む、支援窓口として「J A高齢者支援センター（仮称）」を設置する計画です。

加藤鉦一総代は質問で、「協同組合と株式会社との組織理念は異なる。協同組合は社会を良くすることにあり、株式会社は利益の追求を目的とする組織だ。政府の規制改革会議の提言である全農の株式会社

化に反論できない」と訴えました。黒井組合長は、「全農はすでに多くの子会社を持つている。子会社化で組合員の利便性を高め、今より多角的な業務をおこなえる」と答えました。

（株）あつみ農地保全組合の設立

温海地域に「株式会社あつみ農地保全組合」が設立されます。

円、助成金427万円、作業収入42万円の合計664万円の事業高となりました。

温海では地域の特性から小規模兼業農家が主流であり、荒廃農地の急増や農地保全が大きな課題で、平成24年から関係組織で「農地保全組合設立準備委員会」を組織し、事業を進めてきました。

26年は、わらび苗の販売にも着手し、事業収入800万円超を計画しています。

2年目の25年は取組面積16haで、委託農家数54農家と「特定作業契約」を締結し、あつみかぶや加工かぼちゃ等販売事業が195万

設立時出資金は100万円で、J A庄内たがわ94株94万円、個人は、佐々木茂（一霞）、本間サト子（五十川）、本間やよい（大岩川）、佐藤宣夫（木野侯）、菅原宣男（小名部）、佐藤昌幸（一霞）の6氏です。



J A庄内たがわ（黒井徳夫組合長）の第19回通常総代会の議長を務める阿部利勝氏（余目・農民舞踊家として活躍）

JA庄内たがわ



組合長 黒井徳夫
（東荒屋）



専務 田中壽一
（三和）



常務 五十嵐善昭
（小国）



常務 宮崎重美
（東岩本）



代表監事 坂清一
（長沼字中組）



常勤監事 佐藤 準
（庄内町余目）

（写真は総代会資料から）

藤島サンサン畑の会が研修視察 三瀬保育園とあつみっこ給食センター

藤島地域の学校給食に野菜を届けているサンサン畑の会（去渡勝宏会長）が24日、会員研修で三瀬保育園とあつみっこ給食センターを訪れました。

三瀬保育園（本間日出子園長）は、海や山、田んぼや畑を活かしたユニークな保育が特徴で、給食の食材も園児らが畑でつくる野菜や由良でとれた新鮮な魚



由良漁港から水揚げされたスズキに触る園児たち

を使っています。

この日は由良漁港から水揚げされたスズキを調理前に園児らがさわったり、本で魚を調べたりして盛り上がっていました。

日本の原風景をうたった童謡を大切に、子どもたちの持ついる良さをすくすくと伸ばす保育に市街地からも入園しています。

あつみっこ給食センターは、温海中学校に併設され、廊下を伝って出来たての給食が運ばれ、5つの小学校に

は車2台で運ばれます。藤島ふれあい食センターにいた栄養士の関根淳さんが今年からここで活躍し、地域の食材の発見や伝統食を学び、子どもたちに本物の味覚を鍛えると頑張っていました。



温海中学校に廊下を伝って出来たての温かい給食が運ばれます。

衆院議員・高橋ちづ子さんの成果上げた国会活動

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

国政選挙が済むと、テレビに時々姿を見せる議員以外は、何をしているのか分からない。

国民の願いを胸に

衆院議員 高橋ちづ子

「係争中だから」答えられない、とは厚労大臣がよくやる答弁。しかし今年2月26日予算委員会分科会、新藤義孝総務大臣が「国民の代表である議員が国会でこのように発言いただいたことはとても重い」と答えるとき、手心えがありました。

仙台市の職員だった大友純平さん（当時38歳）が3・11当日津波警報が出た後に、上司の指示で市の広報車に乗って荒浜に向かい、犠牲になりました。



日前に津波警報が来た日、大きな災害が来たら、自分家族のことをふりかえることはできない。もしものときは覚悟してほしい、と語ったそうです。私は「危険を顧みず職責を果たしたことを認めてほしい」と訴

たたかいから新たな前例が

えました。そしてこの答弁が！ 5月に基金本部から「これまで却下された件についても再び基金支部に申請しなおすことができる」という通達が出ました。6月12日、基金本部初の逆転認定を勝ち取ったのです！ 主文は、避難広報を命じられ従事したときから津波により死亡するまでの間、「特殊公務に従事する職員であった」と明記し、終わりに「支部長の処分支部審査会の裁決は失当であって、取り消されるべきものである」と断じたのです！ ご両親や土井浩之弁護士はじめ支援者の奮闘に心から敬意を表します。

新藤総務大臣にお礼の電話をしました。大臣は、「役所のやり方は前例にしたがい、機械的なものでした。でも今度はこれが前例になります」と。そう、たたかいが新しい前例をつくったのです。

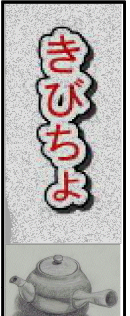
しんぶん赤旗6月22日付

しかししんぶん赤旗は、どの議員が何をしたかの報道は欠かさない。しんぶん赤旗6月20日付は、東北を活動地域とする高橋議員が成果を上げた国会活動を報じている。

仙台市職員Oさんが、3・11当日津波警報が出る中、上司の指示で、広報車で荒浜に向かい犠牲になった。遺族は、地方公務員災害補償基金仙台支部に特殊公務災害を申請したが却下された。特殊公務災害とは、命の危険が予測

される職務に従事する職員（消防職員・警察職員等）への加算制度である。

高橋議員は、Oさんと家族に言っていたことなどを紹介、危険を顧みず職責を果たしたことを認めよと、予算委分科会でせまり、申請し直しの通達を出させ、却下取り消しの初めの逆転認定を勝ち取ったのである。



さもしい心

いつか麻生大臣が使っていたが、見苦しい、いやしい、卑劣である、心がきたない（広辞苑）というのが「さもしい」という意味だ。

▼自民党に投票した人達は、集团的自衛権の行使とか秘密保護法をつくるとかで、アーンヨシヨシと投票した人はいないでしょう。

▼だからと言って地元に戻った先生、オラー首相の言うことに賛成だ。俺を押し付けたアンタの孫が戦争に行くことになるがユルセ、と語った者もおるまいが、戦争はダメだと思ってる人は大部分でしょう。

▼しかしどうですか、みなさん、集团的自衛権の行使といいなながら、近頃の新聞の字が武力行使と変わってきたとは思いませんか。自衛とは闘いだから限定的（チヨットダケヨ）な

わけがないのだし。▼こういうことに大きな声で反対と言ってるのは、かつての大物・加藤紘一や与謝野馨、武村正義さんらだ。憲法九条があるからそんなことはできないヨと言っている。

▼現役のシヨダもこの間まで彼等と一緒にだったのです。そんな一言が言えない現役の心が「さもしい」ということになるのだが。

▼当選〇回とか言える者共が益々言えない。ナントなれば内閣改造で、大臣の呼び声がかかるかも知れないというスケベゴコロがあるからだヨ。

▼そんな何人かのスケベゴコロが首相のワガママを許し、日本を戦争できる国にするのだからオソロシイことだ。▼一言で言った、自民党議員の「さもしい心」がこんなことにしたのだと思っっている。（石川）